

平成 24 年度第 1 回 12 高校進学指導協議会報告

参加者：高橋潤,菊地文雄,佐藤広幸

平成24年5月29日(火)カレッジプラザ 当番校：秋田南高校

1 開会行事

- ①当番校校長挨拶 : 秋田南高校校長 佐藤健公
- ②秋田県教育委員会挨拶 : 県高校教育課参事(兼)高校教育課長 福田世喜

2 発表：別紙参照

3 分科会

- (第1分科会)難関大学志望者の指導について
- (第2分科会)中堅国公立大学志望者の指導について
- (第3分科会)国公立大学の推薦・AO入試について

4 全体会(各分科会報告)

講評 : 高校教育課副主幹(兼)班長 伊藤雅和

5 閉会行事

- ①当番校校長挨拶 : 秋田南高校校長 佐藤健公
- ②次期当番校校長挨拶 : 秋田北高校校長 星野 滋

(第1分科会)難関大学志望者の指導について

分科会発表

1 秋田北高校 竹村竜祥(卒業担任)

東北大合格者数が増加できた理由は、

- ①難関大学志望をあきらめさせない継続的な指導『できる！いける！勝てる！』

H24 卒業生の東北大志望数(1年次)30~40名 (2年次)23名 (3年次)9合格/12受験
東北大合格者9名(理型3名)←通塾者は3名(多くは高校の指導だけ)

②学習指導

- ・1年次から数理探求クラス(2年次以降数Ⅲの先取り)→土曜の午後も補習有り
上記システムでは今春の卒業生が2期生
- ・放課後学習会,難関大志望者の勉強会を実施

③個別指導

- ・難関大志望者対象の添削指導
- ・推薦・AO~一般入試まで『エキスパート制』←今年で3年目のシステム
全職員が医療系,工学系等の系統別に割り振りされ生徒を担当する。
継続して実施が基本。推薦やAOの志望理由書,最後は面接小論文まで担当。
全職員から予め希望をとる。3年の分野別人数を調べそのバランスで振り分け。

2 秋田南高校 佐藤誠男(旧3年部主任)

東北大合格者の指導に関すること。

- ①1年次は生徒面談を積極的に実施。OPキャンパス(7/31 150名参加)の参加を促進。
- ②2年次 5/26～パワーアップ勉強会 15:50～16:50 スタート。1日1教科を英数国で実施。
上記勉強会が入試直前までの放課後補習のベースに
- ③3年次の補習内容で2次の内容で対応(補習は科目,時間,難易別で展開)
- ④個別添削は主に英語実施。数学は文型で対応。
- ⑤進路検討会で生徒情報を共有。

質疑・応答(他校の取組例を含む)

- ・秋田高校の北雄合宿(1年次4月に全員1泊2日)社会人講演5人のOBの話(キャリア教育的な内容も含む)入学当初の良い刺激に。←若い講師に東北大(工)AOⅡ期は教員作成の模試(数学)で実践対応。英語は添削。
- ・鳳鳴高校の東北大対策は,主として添削。志願理由書は夏休み前にコピー配付。夏休み後に書かせる。
- ・能代高校は教科に応じて添削指導。willプロジェクトへの指導の中で。教科によっては他大学の志望者も混じって指導。

(第2分科会) 中堅国公立大学志望者の指導について

司会 佐藤隆一(秋田北高等学校教諭)

1 今年度の東北大学を除く東北6県の国公立大学の受験状況

※後日、職員室の中央テーブルに置いておきますので、詳細はそちらをご覧ください。

2 各高校から

～成績上位者を難関大へ向かわせる手立てや成績下位者の学力向上のための手立て

鳳鳴 1年次に全員東北大のオープンキャンパスに参加させて難関大への意欲を喚起。
2年のうちに難関大志望者を志望と模試成績を参考にして50名前後集め、

国数

英を中心に添削・課外授業。東北大オープン模試の過去問利用。下位者に対しては考査前の勉強会、課題への取り組みを徹底。

能代 難関大ガイダンスを実施して魅力を伝える。大学見学会やインターンシップを効果的に実施。

秋田西 補習の実施を呼びかけて、140名が参加。難関大に向かわせるには保護者の意識改革が必要。

なお、青森県内の高校は低学年次から弘前大学の二次試験の問題を解かせているようである。秋田県内の高校で弘前大受験者の逆転が苦しい傾向にあるのに関

係があるのではないか。

中央 秋田大学志望者が多い。オープンキャンパスへの参加。生活記録を書かせて学習時間を把握。小テストの実施。

秋田南 理系のトップの生徒が結果的に秋田大学（医・看護）を受験。難関大へ向かわせるには知的好奇心を喚起する必要がある。首都圏大学見学会を計画。志望を貫かせるために第2志望を書かせないようにしている。

本庄 難関大に向かわせるには面談を工夫する必要、担任→主任→進路指導主事を実施、校長も加わる。東北大オープンキャンパスへの積極的な参加。難関大ガイダンスを実施して40名が出席。

大曲 東北大オープンキャンパス参加呼びかけ、参加者は増。学研ハイレベル模試の実施、50名ほどが希望。下位者対策としては考査向け勉強会を実施。

角館 難関大に向かわせるために複数の教員で生徒に働きかけ。学校外のセミナー等に参加させ、学校外の生徒を意識させる。下位者対策としては2年次冬に下位者補習を実施。

横手 高校入試が高倍率ではないので生徒には競争意識がないという認識である。とにかく定期考査にしっかり取り組ませることから開始。受験のはたらきかけには担任以外との面談も効果的。

城南 保護者の意識改革必要。上位者・下位者対応として課題を別個に出す対応。

湯沢 日常からの細めな面談による働きかけ。高大連携事業（アドバンスト講義）による知的好奇心の喚起。学力検討会を実施し、個々の生徒の志望や学力を共有し合い、指導に生かす。難関大志望者へは学研ハイレベルや東北大オープン模試の受験呼びかけ。

翔北 国公立大学受験者は多くない。一般入試でがんばるという雰囲気をつくるのが大切。

秋田北 旧3年では東北大9名合格、他に北大、筑波大、富山大（薬）など。推薦も活用、全職員で系統別に指導を分担。難関大志望者へは3年次7月から個別添削。イベントは多い方がいい。生徒が学習することから意識を離さないで生活できるメリットがある。

3 志望校選択上の課題や推薦・AOの活用について

秋田北からの話題提供

推薦で勉強したことは一般にも生きるという考えで、推薦を活用。合格した後も理系は2月の補習まで参加。結果、通常と変わらぬ学習形態が2月にも続いていたことで、不合格者が学習活動に戻ってきやすかった。従来は地元志向が強かったが、男子の入学により、県外の大学に目を向けさせやすくなった。早い時期から働きかけて、志望校を県外にも「分散」させることができた。